

平成20年6月2日発行

神楽が広陵を破り優勝戦線に名乗り！ U-15北海道・旭川地区リーグ兼第6回イレブン杯春季リーグ

U-15北海道・旭川地区リーグ兼第6回イレブン杯春季リーグは、5月31日に第11節が行われました。神楽会場の第1試合では消化試合が少ないため、暫定2位に甘んじている広陵が神楽と対戦しました。優勝争いに残るためには負けられない神楽は谷口の決勝点で広陵を1対0で破り、一躍4位に上がり優勝を可能性が残りました。

第11節 5月31日(土) 神楽中学校

D1 神楽 1 - 0 (0 - 0) 広陵

得点者 谷口(38分)(神)

前半は広陵がボールを支配する。中盤の選手を軸にロングパス、スルーパスを多用してチャンスをつかむが得点にはいたらない。神楽DF陣はミスがいくつもあったが、そのDF陣からのロングパスで反撃のチャンスもつかむ。後半は逆に神楽がボールを支配。38分神楽は右サイドからのボールを川上がヒールキックで流すと谷口がシュートゴールマウスに吸い込まれる。1点を追う広陵が何とか反撃を試みるが及ばず神楽が逃げ切った。

D2A 東川 2 - 1 (1 - 1) 東神楽

得点者 工藤(22分)、江添(56分)(川) 杉原(3分)(神)

前半は立ち上がりから東神楽がボールをつなぎゲームをリードする。3分には鳥毛のクロスに杉原が合わせて先制する。しかし、東川も高畑を軸に徐々にペースをつかみ中央でボールを受けた工藤がターンから見事なシュートを決め同点に追いつく。後半は風上になった東神楽が押し気味に進めるが、東川も丁寧なパスワークで応戦し互角の戦いとなる。55分東川は右CKから江添がきれいに合わせて決勝点を奪った。

D2A 東光 0 - 0 (0 - 0) 神居

前半風上の東光がMF田中の配球から神居ゴールに迫るがシュートには至らない。神居も宮崎から白川、吉田を走らせ東光DF陣の背後をねらうが、加賀美のカバーリングにあい、バイタルエリアに侵入できない。後半東光はトップの宮口にボールを集めゴールを目指す。神居DF陣の粘り強い守備にあい決定機をつかめない。つかめない。互いの守備陣の集中した守りを崩せず、スコアレスドローに終わった。

愛宕中学校

D1 愛宕 3 - 2 (3 - 2) 永山

得点者 越智(2分, 21分)、芝山(7分)(愛) 志摩(14分)、鈴木(29分)(永)

開始早々互いにリズムをつかもうとする矢先に愛宕越智が左サイドのボールの奪い合いからドリブルで抜け出しGKとの1対1を冷静に決める。その後永山もゴール前に攻め込みシュートを放つが得点にはつながらず。愛宕は7分カウンターから右サイドを越智がえぐりゴール前に折り返すと芝山が合わせて2点目を奪う。14分少し引き気味になった愛宕のディフェンスラインに永山が早めにボールを蹴りこみ、ゴール前の混戦を志摩がゴールを決める。永山も風上の好条件を生かし、ゴール前に押し込む。しかし愛宕は21分越智が中央からドリブル突破し3対1とする。永山も29分に右CKから鈴木がヘッドで決めて1点差においすが。後半は一進一退の攻防が続くが両チームともチャンスを決めきれず、愛宕が逃げ切った。

D2B パステーク 2 - 1 (1 - 0) 明星

得点者 佐藤(8分)、月岡(58分)(パ) 0・G(35分)(明)

立ち上がりパステークが優位に試合を進めるが、明星も大平が左サイドを突破してチャンスを作る。8分パステークは佐藤が中央やや右よりでパスを受け思い切りのよいロングシュートを放ち先制する。明星も再三チャンスを作るがパステークGK佐藤明の好セーブに防がれる。後半風上にたった明星が攻勢をしかけ、35分オウンゴールで同点に追いつく。その後も明星ペースで試合は進んだが、58分岩淵の直接FKのこぼれ球を月岡が押し込んで貴重な勝ち越しゴールをあげた。

D1 緑が丘 1 - 0 (1 - 0) 北門

得点者 佐藤(23分)(緑)

序盤は両チーム一進一退の攻防。緑が丘は荒川翔らがチャンスをつかむが、北門GK畠山の好守もあり得点を奪えない。少しずつペースを握っていった緑が丘は23分、ゴール前のこぼれ球を佐藤がミドルシュートを決め先制する。後半も前半同様運動量を生かしてボールの奪い合いが続き、両チームともサイドからチャンスを作るがゴールには至らず、緑が丘が1対0で勝利した。

D1	啓北	広陵	緑が丘	神楽	コンサ	北門	愛宕	附属	永山	六合	試合数	勝	分	敗	勝点	得点	失点	得失差
啓北	-	0-1	1-0	0-0		2-0	1-0	2-0	2-1	7	5	1	1	16	8	2	6	
広陵	1-0	-	0-0	0-0			7-0	5-1	1-0	7	4	2	1	14	14	2	12	
緑が丘		0-0	-	1-1		1-0		3-0	4-1	2-0	6	4	2	0	14	11	2	9
神楽	0-1	1-0	1-1	-	1-0	0-0	1-0				6	3	2	1	11	4	2	2
コンサドレ旭川	0-0	0-0		0-1	-	1-1	1-2	1-2	1-0	2-1	8	2	3	3	9	6	7	-1
北門			0-1	0-0	1-1	-		2-0	1-2	2-0	6	2	2	2	8	6	4	2
愛宕	0-2			0-1	2-1		-	1-1	3-2	1-1	6	2	2	2	8	7	8	-1
附属	0-1	0-7	0-3		2-1	0-2	1-1	-	1-0		7	2	4	1	7	4	15	-11
永山	0-2	1-5	1-4		0-1	2-1	2-3	0-1	-		7	1	0	6	3	6	17	-11
六合	1-2	0-1	0-2		1-2	0-2	1-1		-		6	0	1	5	1	3	10	-7

啓北中がカブスリーグ初勝利を飾る！ 第2回北海道カブスリーグU-15

カブスリーグ第3節は5月31日SSAPで5試合が行われました。啓北中は同じ中体連枠で参入に札幌あいの里東中と対戦。序盤から攻勢に出た啓北中が5対0で快勝し、カブスリーグ初勝利をあげました。

第3節 5月31日(土) SSAP人工芝

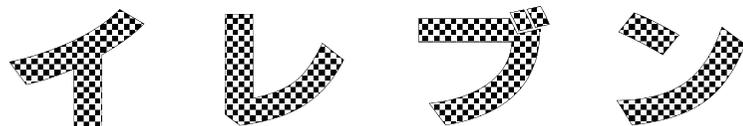
啓北中 5 - 0 (4 - 0) 札幌あいの里東中

得点者 保田(8分)、山内(25分, 28分, 32分)、藤原(42分)(啓)

啓北GK永井(重綱) DF酒井、茂木、高橋竣、干場 MF藤村(高橋拓)、保田、山内、西根(齋藤) FW藤原、笠原(新井)

カブス第3戦は同じ中体連枠で参入しているあいの里東中だった。前半風上にたつ啓北は中盤の底で保田がボールを収め丁寧に配球し、ボール支配率を高める。山内も積極的に前線に飛び出しチャンスにからむ。2分には保田、笠原とつないで飛び出した山内がフリーでシュートを放つが左に外れる。8分啓北は山内が左サイドでボールをキープ、相手DFとの混戦からこぼれたボールをペナルティエリア外で拾った保田が20mのミドルシュート。これがゴール右上に突き刺さり幸先のよい先制点をあげる。1点を奪ったことで動きがよくなった啓北、藤村と酒井の右サイドのコンビネーションもよくサイドから崩す。あいの里東中もトップの(17)、中盤から飛び出す(10)を中心にカウンターからしかけるが、高橋竣、茂木を中心としてシュートには至らせない。啓北は左サイドも干場を起点に笠原、西根がスペースを活用し出す。25分啓北は酒井が右サイド深い位置でボールを受けるとペナルティエリア内の山内にパス。右45度でボールを受けた山内は右足のインサイドでGKのニアサイドを破って2対0とする。28分には藤原の横パスを受けた山内が20mの距離からミドルシュートを放つとこれが決まり大きな3点目となる。32分には山内から自陣で右サイドの酒井にサイドチェンジ。酒井は藤村とのワンツーから右サイド深くに進出しグラウンダーのセンタリング。山内がゴール前の至近距離からダイレクトで合わせて4点差をつける。完全にペースを手中に収めた啓北は圧倒的なボール支配率で攻勢に出る。後半は風下になるだけに序盤の入り方が重要であったが、理想的な追加点を奪う。42分中盤でボールを奪った笠原が藤原へ丁寧なラストパスを送ると、藤原はペナルティエリア内までドリブルで進み5点目をゴールに流し込んだ。この得点以降啓北は運動量も減り、あいの里東にボールを支配され、攻撃は時折見せるカウンターだけとなる。また、DFラインの押し上げが悪くなり、相手FWに出るボールからピンチを招く。しかしGK永井の飛び出しなどで何とか防ぎきり、結果的には5対0で完封。カブスリーグ初勝利をあげた。





平成20年6月1日発行

中盤にさしかかったイレブン杯春季リーグ

U-15北海道・旭川地区リーグ兼第6回イレブン杯春季リーグ

4月26日に開幕したU-15北海道・旭川地区リーグ兼第6回イレブン杯春季リーグは、5月4日から18日にかけて4節12試合が行われました。第5節のコンサフィールド東川では、カブスリーグ所属チーム同士のコンサドーレ旭川と啓北が対戦。コンサ旭川は今大会初めてベストメンバーで臨みましたが、啓北の堅い守備を崩せずスコアレスドローに終わりました。18日までに全129試合中、4割強の試合が消化。まだまだ各グループとも予断を許さない、しのぎを削る戦いが続きます。

第12節 6月1日(日) 忠和中学校

D2C 永山南 6 - 4 (4 - 1) 神居東

得点者 山本(19分, 39分, 42分) 藤原貴(20分, 21分, 25分)(永)

驚見(0分, 45分), 廣瀬(38分), 阿部(43分)(神)

試合開始直後神居東は左サイドの廣瀬から中央の阿部へ。永山南DFの背後にボールが出て、驚見が右45度から先制点を決める。永山南は神居東守備陣の裏を狙った攻撃で徐々に試合を支配する。19分山本が先制点をあげると、20分からの5分間で1年生FWの藤原貴がハットトリックを完成する。後半も山本、片山を中心に攻める永山南が優勢に試合を進め、39分、42分と山本が加点。神居東も阿部を基点に、驚見の右サイドから2点差まで迫るが、反撃もそこまでに終わる。

D2A 忠和 1 - 0 (0 - 0) 北星

得点者 佐藤恒(42分)(忠)

北星は本田、忠和は佐藤恒を軸に互いにカウンター気味の攻撃をしかけるが決定力に欠け前半は終了。後半開始早々から本田がシュートを放つなど北星が優勢に試合を進める。しかし、42分忠和は山根のグラウンダーのCKを佐藤恒が決めて先制する。この1点で勢いにのった忠和は、次第に山根が中盤を支配し始め、ゲームをコントロール。貴重な勝ち点3をあげた。

D1 北門 2 - 0 (0 - 0) 六合

得点者 小出蓮(8分), 鈴木(28分)(北)

双方ともサイドを使ったチャンスを作り出すものの、守備陣のカバーリングと声の連携が光り、膠着状態のまま前半は終了。38分北門はシュートがポストに当たったところを小出蓮が詰めて先制点をあげる。その後は激しいボールの奪い合いが続くが、58分高橋龍のアシストから鈴木が駄目押しのゴールを決めて北門が勝利した。

D2B パステーク 0 - 0 (0 - 0) 聖園

パステークは月岡が中心となって中盤を作るが、聖園は毛利を軸としたオフサイドトラップで対抗。増川も最終ラインで安定した守備を見せる。また、DFラインの背後に出たボールはGK谷本が果敢な飛び出しで処理する。9人とは思えない聖園の試合運びで、パステークにシュートチャンスを与えず、スコアレスドローにもちこんだ。

永山中学校

D1 広陵 7 - 0 (3 - 0) 附属

得点者 松岡(11分, 32分), 吉田(12分), 小野(29分, 46分, 48分, 54分)(広)

警告 高橋(広)

両チームとも激しいプレスの戦いを見せたが、11分高いディフェンスラインのうらをついた広陵松岡が飛び出したGKの破ってサイドから約35mのシュート。DFのカバー及ばず先制点となる。さらに12分にはオフサイドトラップを破って田中が吉田にスルーパス。吉田はきちんと流し込んで2点目を奪う。さらに29分には吉田のアシストから小野が蹴りこんで大きな3点目をあげる。後半は広陵がゴールラッシュを見せる。32分に松岡が吉田のアシストから豪快に蹴りこむと46分から8分間で小野が3得点。守備陣では附属のスピード



のあるFW陣を深川が中心となって完封。小野の4得点、吉田の1得点3アシストの活躍で広陵が思わぬ点差で圧勝した。

D1 緑が丘 4 - 1 (1 - 1) 永山

得点者 荒川翔(23分), 近江(35分), 宮下(39分), 久保(52分)(緑)

鈴木(23分)(永)

警告 半田(永)

緑が丘は中盤からサイドに展開し攻撃をしかけるが、永山も中央を厚くして応戦する。押され気味の永山は23分高田の右クロスから鈴木がきれいに合わせて先制する。緑が丘も29分、猪川のミドルシュートのこぼれ球を荒川翔が押し込んで同点に追いつく。後半は相手のミスを見逃さず緑が丘がゴールを重ねる。35分近江が中央からミドルシュートを決めると、39分には宮下が直接FKをゴールに沈める。52分には相手DFのクリアを久保が直接ミドルレンジから決めて駄目押しのゴールを奪った。

D1 啓北 2 - 0 (1 - 0) 愛宕

得点者 高橋竣(16分), 山内(49分)(啓)

啓北は山内を中心に愛宕DFの背後をついてチャンスをつくり優勢に試合を進める。16分山内の左CKを高橋竣が合わせて先制点をあげる。対する愛宕は越智のポストプレーから反撃を試みる。23分には約25mの距離から意外性のあるロングシュートを放つが惜しくもバーを叩く。後半も試合を支配した啓北が49分山内が駄目押しのゴールを決める。守備陣も酒井、高橋竣を中心に抑えきり2対0で勝利した。

D2B 中富良野 1 - 1 (0 - 0) 東明

得点者 松田(47分)(中) 松井(46分)(東)

前半両チームとの素早い攻撃からチャンスを作りシュートを放つが得点に結びつかない。東明は山川が中盤の底でボールを奪取、司令塔の松井からチャンスをつかむ。中富良野は大谷が最終ラインで体を張って守備。鈴木左サイドからの突破で攻撃を組み立てる。46分中盤でボールを奪った松井がそのまま中央突破し左足で先制点をあげる。しかし、そのキックオフ直後、中富良野は右サイドを突破した松田が角度のないところから強烈なシュートを決め同点に追いつく。その後両チームともゴール前まで攻め込むがゴールを奪えず1対1の引き分けに終わる。相手のエースを忠実なマークで仕事をさせなかった東明DF清水の守備が光った。

コンサドーレ旭川、ユニオンを破り初白星

第2回北海道カブスリーグU-15

カブスリーグ第3節は5月31日SSAPで5試合が行われました。コンサドーレ旭川はユニオンジュニアユースと対戦。33分阿羅の決勝点で1対0で勝ち、カブスリーグ初勝利をあげました。

第3節 5月31日(土) SSAP天然芝

コンサ旭川 1 - 0 (1 - 0) ユニオン

得点者 阿羅(33分)(コ)

コンサ GK今岡 DF吉本, 伊藤, 石井, 田中(成田) MF玉田, 阿羅, 山下, 中澤, 澤田(高木) FW武井(細岡)

トスに勝って風上を取ったコンサ旭川は立ち上がりから試合を優位に進める。1分、右サイドでボールを受けたMF中澤がクロスを上げると、ファーサイドにいたFW武井がボレーシュート。ジャストミーとせず、GKが難なくキャッチされるが、オープニングショットで勢いにのり、その後も相手陣内に攻め込む。しばらく右サイドの阿羅、左サイドから山下がドリブルで突破を図ろうとするが攻めきれない。23分、FKとCK2回で相手ゴール前に連続して迫るがシュートが打てない。30分辺りから左右のサイドからクロスが何本か入りチャンスを得る。やや攻撃にリズムが出てきたコンサは、33分、左サイドの山下がハーフウェイ付近から、右サイドの阿羅へいっきにサイドチェンジ。ボールを受けた阿羅はドリブルで外へフェイクし中へ切り込む。一瞬のシュートチャンスを見逃さず左足を振りぬくと、見事にゴール右上隅にボールは吸い込まれ、カブスリーグ初ゴールとなる。36分には中澤がゴール正面からミドルシュート。GKが弾いたボールはバーにヒットしゴール裏へとなり惜しくも追加点のチャンスを見逃す。

後半は風下となり、かなりの苦戦が予想されたが、先週の強風の中での試合を経験したことにより、GK今岡を中心に落ち着いた守備を見せる。攻撃では、中澤、阿羅、山下がよくボールを保持して起点となる。52分、右サイドを突破した中澤がセンターリング。風にあおられたボールは不規則に変化したため、飛び込んだ武井や澤田はうまく合わせられない。65分、逆襲からボールを受けた澤田が、裏へパスを出すと見せかけて自分で突破。フリーでシュートを打つもバーの上を越す。徐々に疲れが見え始めたコンサは、32分、自陣でのパスミスでカットされそのままドリブルシュートを許すが、幸運にもボールはバーの上へ。38分にも同様なシーンがあったが、左にシュートが外れ事なきを得る。最後の気力を振り絞るユニオンに押し込まれるが、何とか最後まで凌いでタイムアップ。カブスリーグ初勝利をあげた。